二〇二四年度　一般入学試験問題　国語

始まりのブザーが鳴るまで問題冊子、解答用紙に手を触れずに、
左記の注意事項に目を通しておくこと。

◎ 問題用紙は1ページから16ページまであるので、始まりのブザーが鳴ったらすぐに確認すること。

◎ 最初に別紙の解答用紙に受験番号と氏名を記入してから問題を解くこと。

◎ 受験番号は所定の欄に記入後、それに該当するマーク欄にしっかり濃くマークすること。

◎ 解答はすべて解答用紙の所定欄からはみ出さずに記入すること。

◎ とじてある問題用紙をばらばらにしたり、一部を切り取ったりしないこと。

◎ 終了のブザーが鳴ったら筆記用具を置くこと。

◎ 問題冊子は持ち帰ってもかまわない。

受験番号マーク例

良い例	●	悪い例	✓ ⊙ ◐

◎選択肢のある設問は、最も適当なものを選んでその番号を記すこと。
◎字数指定のある設問は、句読点や記号も一字とする。

【一】次の文章を読み、後の問に答えよ。

《著作物利用許諾申請中》

【二】次の文章を読み、後の問に答えよ。

《著作物利用許諾申請中》

【三】次の文章を読み、後の問に答えよ。

昔徳言といふ人、陳氏と聞こゆる女にあひぐしたりけり。①かたちいとをかしげにて心ばへなど思ふさまなりければ、互ひに浅からず思ひかはして年月を経るに、思ひのほかに世の中乱れて、ありとある人、②[ア]も[イ]もさながら山・林に隠れまどひぬ。さりがたき親・はらからも四方（よも）にたち別れて、おのがさまざま逃げさまよへる中に、③この人別れを惜しむ心誰にもすぐれたりければ、人知れずもろともあひ契りけり。「我も人もいづかたとなく失せなん後、おのづから世の中しづまりて又もあひ見る事ありなんものを、その程のありさまをばいかでか互ひに知るべき」と聞こえさするに、女の年ごろ持ちたりける鏡を中より切りて、おのおのそのかたがたを取りて、「月の十五日ごとに市に出だして、この鏡の半ばを尋ねさするものならば、必ずあひ見て互ひにそのありさまを知るべし」と言ひつつ、いといたううち泣きて別れ去りぬ。その後この夫恋しさわりなくおぼえていたづらに月日を過ぐすままに、「いかなる人に心をうつして契りしことを忘れぬらん」と、④胸の苦しさおさへがたくぞおぼえける。

ます鏡割れて契りしそのかみのかげ⑤はいづちかうつり果てにし

かやうに思ひやりけるにしも、色かたちのなまめかしく華やかなるにやめでたまひけん、時の親王にておはしける人にかぎりなく思ひかしづかれて年月を経るに、⑥ありしには似るべくもなきありさまなれど、この鏡のかたがたを市に出だしつつ、昔の契りをのみ心にかけて世の常は下燃えにてのみ過ぐしけるに、鏡の割れ持ちたる人とて尋ねあひて、男・女のありさま互ひにおぼつかならず知りかはしつ。女これを聞きけるよりおぼえず悩ましき心地うち添ひて、うつし心ならぬけしきを見とがめて[⑦]あやしみ問ひたまふを、さすがに覚えてしばしば言ひまぎらはしけれど、強いてのたまはすればわびしながらありのままに聞こえさせつ。親王これを聞きたまふに⑧御袖もしぼりあへず、あはれにいみじくおぼされけるにや、装ひいかめしきさまに出だしたてて、昔の男のもとへ送りつかはしたるに、徳言かぎりなくうれしきにつけてもまづ涙ぞ先立ちける。

契りおきし心⑨にくまやなかりけむふたたびすみぬ中川の水

いやしからぬありさまを振り捨てて昔の契りを忘れざりけん人よりも、親王の御なさけはなほたぐひあらじや。

（『唐物語』）

問一　――①とはどういうことか。

1　偶然出会ったということ
2　共に暮らしていたということ
3　言い寄っていたということ
4　一緒に出掛けたということ

問二　――②の［ア］・［イ］には対義語が入る。適切な語を二つ選べ。（順不同）

1　高き　2　すさまじき　3　美しき　4　いやしき　5　若き　6　恐ろしき

問三　――③とはどういうことか。

1　徳言は陳氏以上に別れることを悲しみ、誰よりも嘆いたということ。
2　陳氏は徳言との別れを悲しみ、誰とも会わなくなったということ。
3　徳言も陳氏も別れを悲しむ気持ちが誰よりも強かったということ。
4　徳言は陳氏と別れる悲しみを誰にも明かさなかったということ。

問四　――④はなぜか。

1　陳氏と別れてしまったことを後悔しているから。
2　陳氏が約束を破ったのを他の人から伝え聞いたから。
3　陳氏に会えない間に他の人に惹かれてしまったから。
4　陳氏が心変わりしたのではないかと不安になったから。

問五　――⑤とは何か。

1　人影　2　月影　3　幻影　4　遺影　5　面影

問六　――⑥とはどのような「ありさま」か。

1　偉そうで思いやりがなくなったさま
2　豊かで幸せな生活を送っているさま
3　病気でやつれてしまったさま
4　見違えるように美しくなったさま

問七　⑦　に入る人物を本文中から漢字二字で抜き出せ。

問八　――⑧はどういう様子か。

1　あきれ果てた様子
2　同情している様子
3　腹立たしく思っている様子
4　うらやましく感じた様子

問九　――⑨は何のことか。

1　悩み　2　偽り　3　憐(あわれ)み　4　恐れ　5　弱み

問十　本文において「鏡」はどのような役割を果たすものか。

1　昔を思い出させてくれるもの
2　離れている相手の心を映すもの
3　売って生活の足しにするもの
4　再会のための目印となるもの

【四】次の傍線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直せ。

1 合唱コンクールでシキをする。
2 新生活にあたりケンヤクを心がける。
3 厳かな雰囲気の中、式がとり行われた。
4 長年のコウセキが認められ、昇進する。
5 書道の授業でハンコをホる。
6 猛暑で自然と汗が滴る。
7 鎌倉時代に建立された寺院。
8 新しい条例は四月一日にシコウされる。
9 軽々しく金銭のタイシャクをしてはならない。
10 入学後はクラブに入ることをススめる。